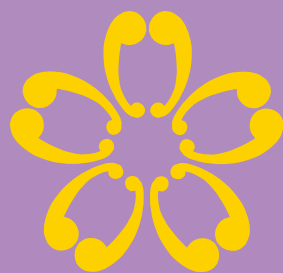


佐倉の教育

平成22年度



佐倉市教育委員会

佐倉市民憲章

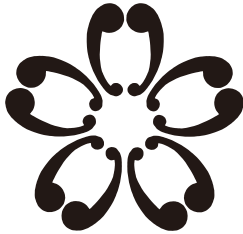
わたくしたちは、印旛沼湖畔のきれいな空気と、緑と太陽と歴史に恵まれた佐倉市民です。

全市民は力を合わせて、この憲章を守り、理想のまちをつくりましょう。

1. 私たちは、美しく清潔なまちをつくりましょう。
1. 私たちは、公衆道徳を守り、スポーツを愛し、明るいまちをつくりましょう。
1. 私たちは、歴史や自然を大切にし、おくゆかしいまちをつくりましょう。
1. 私たちは、老人を敬い、子どもを愛し、あたたかいまちをつくりましょう。
1. 私たちは、創意と努力をもって、豊かなまちをつくりましょう。

(昭和45年12月23日制定)

市章



この市章は、佐倉藩主堀田氏の紋章の一つであって、出陣に際して使用したものです。

図案は、陣馬の「クツワ」につけるかん鑲を組み合わせ桜花となし、これを鑲桜といいます。

鑲は陣馬操縦にあたり馬口を引き締める大切な道具です。

市章は市民がこん然一体となり、心を引き締めて市の建設発展にまい進する強い意思を表し、桜は佐倉に通じて平和でうらかな市民の心意気を示しているものです。

(昭和30年4月1日制定)

佐倉市教育の日 11月16日

今後の佐倉市が多くの人材を育てる「まち」として着実な歩みを続け、一層の充実が図られ、確かな人づくりを進めることを目的として、「佐倉市教育の日」を制定しています。

※期日の由来は

佐倉藩主堀田正睦公が天保4年（1833）11月16日、藩政改革を宣言した日に当たり、これが佐倉藩の学問興隆の契機になった日です。

(平成17年3月24日制定)

[表紙説明]

佐倉市立佐倉中学校

平成21年11月に完成した新校舎です。校舎の中央は佐倉城の大手門を見立てて造られており、歴史ある学校として伝統の承継を考慮したデザインとなっております。今年度中には外溝工事も完了し、歴史と文化の薫り高い環境にふさわしい学校として完成する予定です。

● ● はじめに ● ●

現在、国・文部科学省では、教育基本法の改正に基づく教育振興基本計画により「教育立国」の実現にむけ、平成20年7月より各教育施策が実施されています。千葉県教育委員会では、有識者による会議等をへて千葉県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」が平成22年3月に定められました。この計画では、『ふれる』『かかわる』そして『つながる』を基本的な取り組み方針として10年後の子どもたち、家庭、学校、地域の姿を展望し、それを実現するための目標と施策の方向性及び今後5年間に実施する重点的、計画的な取り組み等がしめされると同時に各事業が実施されています。

このような中、佐倉市教育委員会では、「佐倉教育ビジョン」に基づき新しい佐倉の人づくりと地域づくりを目指して、特色ある教育施策の実現に努めております。このビジョンは佐倉の教育における中・長期の指針となる教育理念を明確に打ち出しているもので、市の第3次総合計画と同じく本年度が目標年度となります。来年度から開始される市の第4次総合計画並びに教育委員会の新「佐倉教育ビジョン」の策定に向けこれまでの事業の評価をもとに、計画の整合性を含め検討委員会等で次年度以降の計画の策定を進めているところです。

この平成22年度「佐倉の教育」では、昨年度に引き続き、学校を中心として家庭や地域の教育力のさらなる向上を図ること、子どもたちの学力や体力をさらに高めること、佐倉市の教育の特色である「佐倉学」の普及、促進を図ること等を重点といたしました。

学校教育では、子どもたち一人一人の能力や個性に応じて、基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、言語活動を重視した表現活動をとおして、思考力や判断力、表現力等の力を養うとともに、佐倉に伝統として残る「好学進取」の態度、道徳的な価値を共有し、実践できる児童生徒の育成に取り組んでまいります。このねらいを達成するために、全校で取り組んでいる朝の10分間読書を核として、子どもたちの読書量を確実に増やしてまいります。そして、教育課程の位置づけが定着してきた「佐倉学」を推進するとともに、新しい学習指導要領の趣旨を活かした授業改善を図ってまいります。また、これからの教育には、家庭や地域の人々一人一人の力が欠かせないことから、学校と家庭が連携し、家庭での生活習慣や学習習慣の確立、地域の教育力を生かした学校運営や子どもたちの安全、そして学習のための支援活動等を拡充してまいります。

社会教育においては、家庭教育学級の学習の充実をはじめ家庭教育支援に積極的に関わってまいります。また、各公民館や図書館、美術館等の特長を生かした「佐倉学」事業をさらに進め、特色ある市民のための講座や成人教育の拡充を図っていくとともに、歴史のまちとしての伝統を大切に、佐倉に残る文化財の保存と活用を図っていくこと等を進めてまいりたいと考えております。

「佐倉の教育」が各教育機関における平成22年度の教育施策の指針となり、佐倉市の特色ある教育がさらに進展することを期待しております。

佐倉市教育委員会
教育長 葛西広子

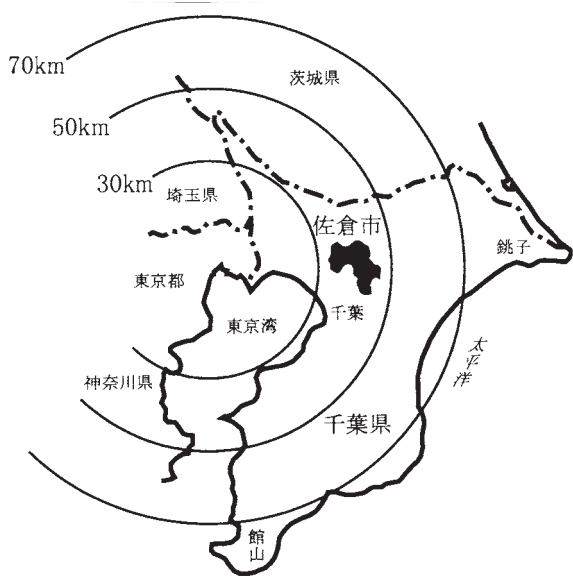
目 次

1. 佐倉市の概要	
1-1 位置及び地形	1
1-2 人口の推移	1
1-3 沿 革	2
2. 佐倉市教育委員会教育委員	3
3. 平成22年度教育目標	4
3-1 教育ビジョンに基づく施策の内容	7
3-2 教育センター事業	21
3-3 公民館事業	22
3-4 図書館事業	32
3-5 市民音楽ホール事業	34
3-6 美術館事業	37
3-7 佐倉学	38
4. 学校紹介	42
～ 資 料 ～	
1. 教育行財政	
1-1 歴代教育委員	62
1-2 平成21年度教育委員会会議	64
1-3 平成21年度教育功労者等	65
1-4 教育委員会機構	66
1-5 職 員 数	67
1-6 教育費予算・決算	
1-6-1 平成22年度一般会計予算の概要	68
1-6-2 平成22年度教育費の科目別予算額と財源内訳	70
1-6-3 一般会計及び教育費決算額の推移	72
1-6-4 教育費決算額及び学校建設費の推移	73
2. 教育関係委員・諸団体役員	
2-1 学校教育関係	
2-1-1 各種団体代表者一覧	74
2-1-2 佐倉市校長会・教頭会	75
2-1-3 佐倉市心身障害児就学指導委員会委員	75
2-1-4 佐倉市学区審議会委員	76
2-1-5 佐倉市学校教育相談員	76
2-1-6 佐倉市学校評議員	77
2-1-7 学校医・学校歯科医・学校薬剤師	79
2-1-8 佐倉市学校保健会	80
2-2 社会教育・文化関係	
2-2-1 佐倉市社会教育委員	81
2-2-2 佐倉市公民館運営審議会委員	81
2-2-3 佐倉市立図書館協議会委員	82

2-2-4	佐倉市社会教育指導員	8 2
2-2-5	佐倉市P T A連絡協議会	8 2
2-2-6	佐倉市青少年問題協議会委員	8 3
2-2-7	佐倉市青少年相談員	8 3
2-2-8	佐倉市文化財審議会委員	8 5
2-2-9	佐倉市市民文化資産運用委員会委員	8 5
2-2-10	佐倉市立美術館運営協議会委員	8 6
2-2-11	佐倉市文化団体連絡協議会	8 6
2-3	スポーツ関係	
2-3-1	佐倉市社会体育指導委員	8 7
2-3-2	佐倉市体育協会	8 7
2-3-3	佐倉市スポーツ少年団	8 8
3.	教育関係施設	
3-1	学校一覧	
3-1-1	市内幼稚園	8 9
3-1-2	市立小・中学校	9 0
3-1-3	県立高等学校	9 1
3-1-4	短期大学	9 1
3-2	学校施設一覧	
3-2-1	教室等施設	9 2
3-2-2	建物・校地面積	9 3
3-3	社会教育等施設一覧	9 5
3-4	社会体育施設一覧	9 6
4.	その他	
4-1	児童生徒数の推移	9 7
4-2	スポーツテスト実施状況	9 8
4-3	スポーツ施設利用状況の推移	9 9
4-4	指定・登録文化財一覧	1 0 0
4-5	市民文化資産一覧	1 0 2

1. 佐倉市の概要

1-1 位置及び地形



(1) 位置

本市は千葉県北部の中央に位置し、都心から東へ40km、県都千葉市から北東へ20km、成田国際空港から西へ15kmの所にある。

東西・南北は各15.9kmで、東部は酒々井町、東南部は八街市に接し、南西部は千葉市、四街道市、西部は八千代市と界し、北部は印旛沼を隔てて印旛村に相對している。

平成22年3月末現在の行政面積は103.59km²である。

(2) 地形

当市域は印旛沼の南方に展開する低地と台地であるが、これを区分すると、沼沿い並びにこの沼に注ぐ小河川沿いの谷津を併せての低湿地と洪積層の台地、それと両者の間の傾斜地の三部に区分することができる。

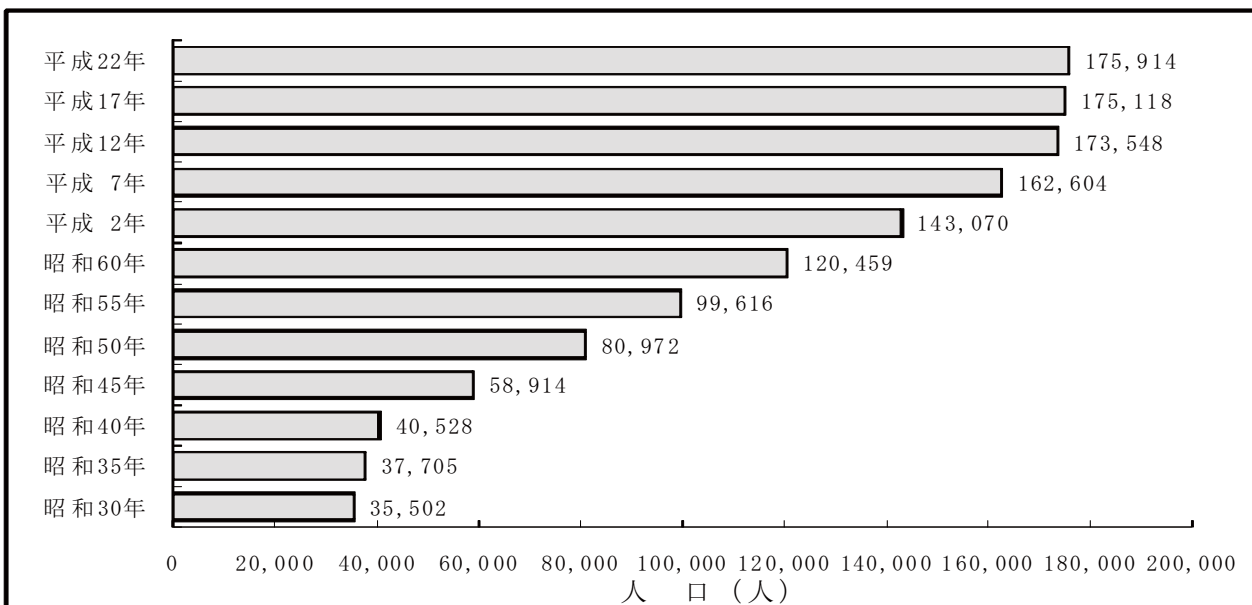
方位	東 経	北 緯
極 東	140° 18'	35° 41'
極 西	140° 07'	35° 42'
極 南	140° 15'	35° 37'
極 北	140° 12'	35° 45'

市役所の位置

東経 140° 13' 26"
北緯 35° 43' 24"

1-2 人口の推移

各年3月末現在



1-3 沿革

原始・古代

印旛沼と沼に注ぐ河川がもたらす水利のよさや比較的温暖な気候に恵まれた佐倉市には、原始・古代の遺跡が多く分布しています。その内容を見ると、古くは先土器時代や縄文時代の文化を認めることができます。

先土器時代の生活は、星谷津遺跡、太田・大篠塚遺跡等の調査結果にかいま見ることができます。続く縄文時代になると遺跡数は次第に増加していきます。上座貝塚、間野台貝塚からは海水産の貝が出土し、縄文時代の初め頃には当地域にも海が存在していたことが明らかになっています。また、吉見台遺跡や宮内井戸作遺跡では縄文時代後期に比較的大規模な集落が存在していたことが明らかになっているほか、井野長割遺跡では環状盛土遺構が発見されています。弥生時代の遺跡としては江原台遺跡や六崎大崎台遺跡が著名ですが、この当時、印旛沼を中心とする地域色の濃い文化が成立していたことがうかがわれます。

古墳時代になると次第に地方色は薄れ、全国的に画一化した生活様式が多く見られるようになります。古墳時代から中世まで営まれた高岡遺跡群では、中央権力の影響が次第に地方にまで及ぶようすがうかがわれます。

中世

平安時代末まで今の佐倉市域には、印東荘、白井荘、白井荘といった荘園があり、上総介一族が勢力を持っていました。鎌倉幕府成立以降は、下総の守護となった千葉氏の一族がこの地方に進出し、戦国時代には本佐倉城（佐倉市・酒々井町）と呼ばれる大きな城を築き、下総国支配の拠点としました。

天文年間（1532～1554）には、千葉氏一族の鹿島幹胤が現在の佐倉城址公園の地に鹿島城の築城を始めましたが、天正18年（1590）小田原北条氏の滅亡とともに千葉氏も滅亡しました。

近世

慶長15年（1610）に土井利勝が佐倉に封ぜられると、慶長16年に鹿島城の跡に、新たに佐倉城を築き、城下町の整備を始めました。以後、佐倉は江戸を守る重要な地となり、代々幕府の老

中に任ぜられるような譜代大名が治めるようになりました。

佐倉は、成田街道の要衝でもあったため、宿場町である白井とともに江戸への物資の輸送や、成田山参詣の人々の往来でにぎわいました。

歴代佐倉藩主で最も長期にわたったのは堀田氏で、その期間は寛永19年（1642）～万治3年（1660）と延享3年（1746）～明治2年（1869）の版籍奉還まで続きました。幕末期の藩主堀田正睦は、早くから蘭学と英学に注目し、医学や兵学の研究も盛んでした。この正睦は、幕閣にあって日米修好通商条約の締結にも深く関与した人物です。

近代・現代

明治維新後、廃藩置県で佐倉藩は佐倉県となり、後に印旛県に再編されました。明治6年6月15日に印旛県と木更津県が統合され千葉県が誕生し、佐倉に郡役所が開設されるなど、この地方の政治の中心となります。また佐倉城跡に歩兵連隊が置かれ、第二次世界大戦終結まで連隊の町でしたが、戦後の復興期をむかえた昭和29年3月31日、佐倉町、白井町、志津村、根郷村、弥富村、和田村の六町村が合併し、佐倉市が誕生しました。その後、旭村、四街道町の一部をそれぞれ編入し、現在に至っています。

昭和40年代以後の工業団地や住宅団地の造成により人口も急増し、昭和55年4月には県内で12番目の人口10万の市となりました。その後も着実に増加し、現在は人口17万人を超えています。

また、豊かな自然環境や、武家屋敷、旧堀田邸など遺跡史跡に富んだ歴史の町佐倉には、明治百年記念事業の一つとして国立歴史民俗博物館が昭和58年に開館しました。

昭和62年に「佐倉日蘭協会」が設立され、国際化の進展の中で、市民による草の根的な国際交流も盛んに行われ、また平成7年には「佐倉市平和行政の基本に関する条例」を県内で初めて制定し、恒久平和に向けた様々な事業を展開しています。

佐倉市は、歴史と伝統を継承し、将来都市像である「歴史 自然 文化のまち」を実現するため、薫り高い文化の創造と快適なまちを目指して、まちづくりに取り組んでおります。

2. 佐倉市教育委員会教育委員

(平成22年5月1日現在)



関山 邦宏
(委員長)



齋藤 恵子
(委員長職務代理者)



田邊 俊彦
(委員)



菅谷 義範
(委員)



葛西 広子
(教育長)

役職名	氏名	任期	就任日
委員長	関山 邦宏	平成18年10月2日～平成22年10月1日 (委員長としては 平成21年10月2日～平成22年10月1日)	平成5年6月8日
委員長職務代理者	齋藤 恵子	平成20年4月1日～平成24年3月31日 (委員長職務代理者としては 平成21年10月2日～平成22年10月1日)	平成16年4月1日
委員	田邊 俊彦	平成21年6月30日～平成25年6月29日	平成21年6月30日
委員	菅谷 義範	平成21年10月6日～平成25年10月5日	平成21年10月6日
教育長	葛西 広子	平成20年10月2日～平成24年10月1日	平成20年4月1日